

普及項目	増殖
漁業種類等	採貝業
対象魚類	アサリ
対象海域	熊本有明

被覆網を用いたアサリ増殖技術指導

県北広域本部水産課・高日 新也

【背景・目的・目標（指標）】

当水産課では、アサリ母貝場の造成手法を検討するため、令和2年度（2020年度）以降、管内各地で網袋や被覆網等によるアサリ増殖の技術指導を実施している。

令和4年度（2022年度）は、玉名市滑石地先等の計5漁場において、被覆網によるアサリ稚貝の保護方法や成貝の漁獲方法に係る技術指導を実施した。

【普及の内容・特徴】

令和4年（2022年）7月から令和5年（2023年）3月にかけて、荒尾市牛水、玉名市滑石及び大浜、熊本市松尾及び小島漁場において、各漁業協同組合に対して、被覆網の設置及び管理に係る技術指導を実施した。

また、令和5年（2023年）3月には、被覆網下で多くの成貝が高密度に生残した滑石漁協に対して、被覆網下での効率的なアサリの漁獲方法について技術指導を実施した。

【成果・活用】

荒尾市牛水地先では、令和4年（2022年）冬季に設置された約2,700㎡の被覆網について、生息状況調査及び被覆網の管理指導を実施した。当漁場では、夏季にホトトギスマットを原因とした大規模なアサリのへい死が発生したものの、令和5年（2023年）3月までに漁獲サイズの成貝が最大320個/㎡生残し、令和5年（2023年）4月以降に漁獲が見込める状況となった（図1、2）。

玉名市滑石地先では、昨年度から引き続き、3月から5月にかけて設置技術指導を行い、約400枚（約8,000㎡相当）の被覆網が設置された。当漁場では、冬季に一部の被覆網下で減耗が確認されたものの、令和5年（2023年）3月までに3分貝以上が最大1,870個/㎡生残した（図3～5）。

このことから、当漁場では、令和5年（2023年）3月に5年ぶりにアサリの漁獲が開始され、水産課は、漁獲を行う被覆網の選定や漁獲終了後の復旧方法等について技術指導を実施した（図6）。

これら以外のいずれの地先においても、被覆網を設置した漁場では、設置していない漁場と比較して良好な生残状況となっており、熊本市小島地先では令和5年（2023年）4月以降に、熊本市松尾地先では令和5年（2023年）5月以降に漁獲が開始される見込みである（図7～8）。

これらの結果から、被覆網による稚貝の保護効果は高いと考えられるが、漁場によって減耗要因が異なると考えられた。また、漁場間の成長差が大きいことから、この被覆網の設置方法については、漁場の特性に応じて対応していく必要があると考えられた。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

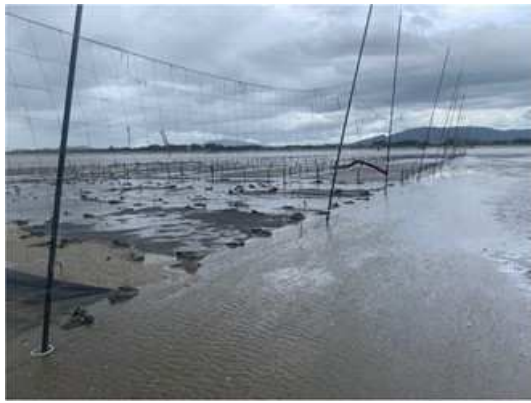


図 1 被覆網の設置（牛水地先）



図 2 生残状況（牛水地先）



図 3 被覆網の設置（滑石地先）



図 4 被覆網の管理（滑石地先）



図 5 生残状況（滑石地先）



図 6 漁獲状況（滑石地先）



図 7 生残調査（小島地先）



図 8 生残調査（松尾地先）